

## ショートコメントvol.13 (2014年8月27日)

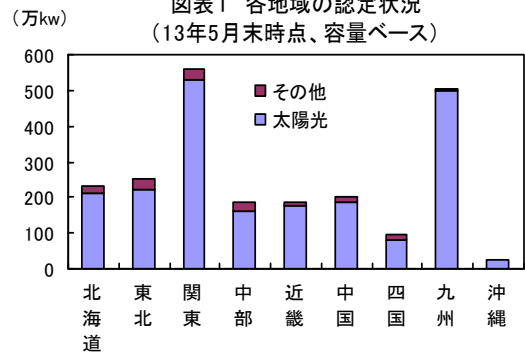
テーマ：再生可能エネルギー固定価格買取制度における設備認定状況

### ① 概況

昨年7月に再生可能エネルギーの固定価格買取制度が開始となり、資源エネルギー庁からは今年5月までの実績が発表されています。それによると、全国では約2,237万kw分が認定されていますが、特に多いのは関東と九州で、ともに500万kwを超えています(図表1)。一方、関西は約187万kwと、中部や中国とほぼ同じ水準にとどまっている状況です。

月次の動きをみると、4月から太陽光の買取価格が引き下げられた影響で、年度末の2、3月に案件が一気に増えた後、4月以降は低調な動きとなっています(図表2)。関西は中部とほぼ同じ推移をたどっていますが、買取価格が下がったことによる今年度の導入量への影響が注目されます。

図表1 各地域の認定状況  
(13年5月末時点、容量ベース)

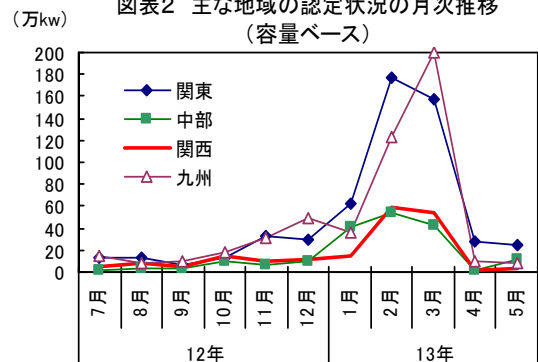


(出所)資源エネルギー庁「再エネ設備認定状況」

### ② 関西の注目点

一方、関西で注目されるのは運転開始率の高さです。全国的には、認定された設備のうち運転が始まっているものは13.6%(容量ベース)とまだ少なく、北海道や東北は10%を下回っていますが、関西は23.4%で全国トップとなっています(図表3)。これらの地域差は、メガソーラーの比率による部分が大きく、その比率が低い関西や関東、東海といった都市圏は、20%前後と高めの水準にあります。

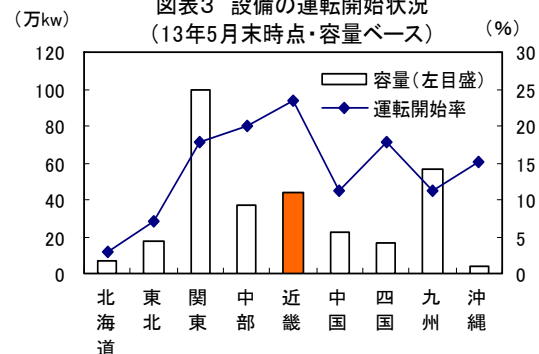
図表2 主な地域の認定状況の月次推移  
(容量ベース)



(出所)資源エネルギー庁「再エネ設備認定状況」

結果として、関西では44万kw分の運転が始まっており、関東の99万kw、九州の57万kwに次ぐ規模となっています。小規模の太陽光発電については自家消費されるため、この全てが買取対象となるわけではないものの、今夏は猛暑で消費電力も増えているだけに、需給率の緩和に少しでもつながることが期待されます。

図表3 設備の運転開始状況  
(13年5月末時点・容量ベース)



(出所)資源エネルギー庁「再エネ設備認定状況」

### ③ 府県別の動き

一方、主な都府県別の動きをみると、関西では兵庫県での導入の多さが目立ちます(図表4)。太陽光のう

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

ち、「10kw未満」（家庭用）は東京都、愛知県、大阪府が多いなど、ほぼ人口に比例した動きとなっておりますが、「10kw以上1000kw未満」、「1000kw以上」では兵庫県が関西トップで、全国でも上位にあります（それぞれ全国6位、9位）。兵庫県での導入が多い要因には様々なものが考えられますが、その一つに日照時間の長さが挙げられます。全国的には、関東や東海、九州南部と並んで、瀬戸内海沿岸も日照時間が長いことで有名です。

今後の動きについては、メガソーラー（1000kw以上）は利用に適した土地が限られることもあり、徐々に取り組みが減る可能性もあるため、「10kw以上1000kw未満」が中心となりそうです。これは企業が事業所や工場の屋根に設置したり、遊休地を活用する動きが中心ですが、年度後半にかけてどの程度増えてくるかが注目されます。その際、やはり関西では兵庫県が取り組みの中心となりそうです。

図表4 太陽光関連の主な地域・都府県別シェア（13年5月末時点・容量ベース）

	太陽光		
	10kw未満	10～1000kw	1000kw以上
関東	36.0	28.2	22.6
東京	4.3	0.6	0.1
中部	12.2	10.8	5.5
愛知	6.8	4.1	1.6
近畿	14.7	10.9	6.6
滋賀	1.8	1.6	0.5
京都	1.6	0.9	0.4
大阪	4.3	2.0	0.9
兵庫	4.0	4.2	3.6
奈良	1.5	0.9	0.4
和歌山	1.2	1.0	0.7
九州	15.1	25.6	24.0
全国	100.0	100.0	100.0

（出所）源エネルギー庁「再エネ設備認定状況」

本件照会先:大阪本社 荒木秀之  
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。